

大幅賃上げは当然の要求

実質賃金10月 連続マイナス 生活直撃し職場は深刻な要員不足

低賃金と要員不足を訴えるグループ会社の声

(12月7日勤労総連合大会での発言より)

■高崎鉄道サービス

清掃職場の時給1141円。まったくの低賃金で人が入ってこない。3人体制の仕事を2人でやらされている。会社は「きれいにしろ」と言っていたが、「ごみがあつても構わない」と言い出した。やってられないという声があがっている。人がいないとまともな仕事もできないし、安全も確保できない。

■水戸鉄道サービス

来年3月に水戸の駅ビルの清掃契約が来られるといわれている。そこで働く人は別の職場か、辞めるか、転籍かの選択が迫られている。「この会社はどうなるのか」と話されている。退職も止まらない。徹夜勤務の2連続、3連続は当たり前。要員不足は非常に深刻。

■千葉鉄道サービス

清掃職場の人数は去年から社員・契約・パート・エルダー含めて42人減っている。現場では所長まで外板清掃をやっている。夜勤も人がいなくて、5人体制から4人体制にされようとしている。賃金が低く、人も来ない。

■環境アクセス(神奈川)

小田原事業所だが、副所長と所長が現場に出てくるくらい人がいない。ストをやったときも、副所長がスト破りに入る。今年は7人辞めて4人しか入っていない。

厚生労働省は12月8日、10月分の実質賃金(速報値)について0・7%減と発表しました。10ヶ月連続のマイナスです。厚労省自身、確定段階ではさらに低下する可能性を指摘しています。春闘での賃上げ、最低賃金引き上げによる増額を経てもプラスにはなりませんでした。

激しい物価高は、現場労働者の生活を直撃しています。特にグループ会社への影響は深刻です。賃金は最低賃金レベルにおかれ、常に要員不足の状態です。清掃職場では会社自ら「ゴミが多少あつても仕方ない」というほどです。

超低賃金と要員不足でまともに業務も維持できなくなっているのです。大幅賃上げは当然の要求です。物価上昇分の「後追い」ではなく、「まともに生活できる賃金」を実現すべきです。

現場崩壊的な現実を作っているのはJRです。JRはグループ会社に激しいコスト削減を要求し、矛盾を現場に押し付け、超低賃金を押し付けてきました。そうして巨額の黒字を稼いでいるのがJRなのです。

JR・グループ会社から共に声を

JR本体において来年度から開始されようとしている組織、人事、賃金制度の抜本的改悪の攻撃は、労働者の権利、労働組合の存在を根本から破壊する攻撃です。そして、グループ会社大再編の攻撃と一体です。

JRの安全、労働者の権利、働く仲間の誇りを守るために、必要なのは闘う労働組合です。ともに声をあげ闘おう。